



# 岩松小学校だより



学校だより 第25号

令和8年10月23日発行

発行者 校長 真子靖弘

## なぜ校長講評を実行委員長の言葉に変えたのか

10/18(日)、晴れの空のもと岩松小学校運動会を無事に開催することができました。応援に駆けつけてくださった保護者や地域の皆様、本当にありがとうございました。



今回の運動会では、従来の「校長講評」に代わり、「実行委員長の言葉」で締めくくを行いました(宮原さんの思いが溢れていました)。自分たちで決めたスローガンに向かい、自ら考えて練習を積み重ねてきた子どもたち。その成果と努力を総括するのは、大人ではなく、他ならぬ当事者である子ども自身であるべきだと感じたからです。

私たちはこれからも、子どもたちの意見を最大限に尊重し、一人ひとりが「自分たちの学校を自分たちで創っている」という当事者意識を持てる環境づくりを進めてまいります(2023年施行の『こども基本法』の理念に即した取り組みでもあります)。

## 「なぜ？」から始まる、自分たちの運動会づくり

運動会の練習期間中、4年生の子が昼休みに校長室へやってきてハッとさせられるような「問い」を投げかけてくれました。



「どうして4年生からソーランをするの？ 5年生から繋いでいくなら納得できるけど、4年生からだだと3年間ずっと同じになっちゃう」「実行委員会が企画する種目を、もっと増やしたら面白そう!」

物事をあたりまえと決めつけず、主体的に捉えている姿に「実におもしろい!」と心が躍りました。

「来年、あなたが運動会実行委員になって、それを実現させてみたら?」と伝えと、「絶対、実行委員になります!」と目を輝かせて言っていました。

誰もが当事者としてアイデアを出し合い、自分たちの手で創り上げていく運動会へ。子どもたちの頼もしい芽生えに、嬉しさと楽しみが込み上げたひとときでした。

## ご家庭で楽しむ読書の秋～本がつなぐ親子の心～

読書にぴったりの季節となりました。10/21(水)には、読み聞かせボランティア「ピーターパン」の皆様をお迎えし、子どもたちが楽しみにしていた読み聞かせを行いました。

本校の子どもたちも普段からよく本に親しんでおり、9月末時点で「150冊」を達成した児童が13人(1年生1人、3年生5人、4年生1人、5年生4人、6年生2人)もいます。中でも最多は、5年生原口さんの276冊という素晴らしい記録です。

研究機関(東大社研・ベネッセ)の長期追跡調査によると、就学前に「週4日以上」読み聞かせを受けた子どもは、成長後も読書時間が1.5～2倍多く、その習慣は中学生まで続くそうです。さらに、家庭に本があり、保護者自身が学ぶ姿勢を見せている環境も、子どもの読書習慣に大きな良い影響を与えています。

忙しい日々ですが、ほんの少しスマホを置いて、子どもと一緒に一冊の本をめくる…そんな温かな時間が、子どもたちの豊かな心を育てます。ぜひご家庭でも「読書の秋」を一緒にお楽しみください。



## 脳科学が解き明かす「読書」のすごい力!

最近読んだ脳科学者・毛内弘氏の『読書する脳』によると、読書は単なる情報収集ではなく「脳構造を鍛え変化させる能動的な行為」だそうです。

文脈や情景を自ら描くことで思考力や記憶力が鍛えられるほか、漢字と仮名を同時に処理する日本語の読書は「高度な脳トレ」になります。さらに、スマホによる脳疲労の解消、他者への共感力や自分自身の価値観の形成、将来の認知機能維持など、多くのメリットが示されています。

読書には脳を育て心を整える大きな力があります。ぜひ、親子で本を開いてみてはいかがでしょうか。

